

鈴木鎮一先生の

指導用語事典



ここでは、かつて鈴木鎮一先生がレッスンで使われた独特な表現や用語を取り上げ、その内容を先生の言葉とともにお伝えします。今回は、どこの家庭でも直面される「やる気」をどうしたら起こさせるか、ということを考えてみましょう。鈴木先生は、そのためには「意欲づくり」が一にも二にも大事とお話されています。

②1 意欲づくり

生徒 鈴木先生、僕のお母さんは、いつも「勉強しなさい。おけいこはしたの?」と口やかましく言うので、何だか「やる気」まで、なくなってきました。

鈴木先生 それは困ったお母さんですね。「勉強しなさい」と言われ、嫌々机に向かっている様子が目に浮かび

ます。勉強の内容も頭に入らないでしょう?」

生徒 先生、その通りです。

鈴木先生 「やる気」を起させる一番の方法は「意欲づくり」です。では、どうやって「意欲」をつくることができるのかな?」

生徒 (ナンタカ、ムスカシイゾ)

夏期学校に参加することで、全国から集まった仲間たちとともに過ごしながら、「意欲づくり」を効果的に行なうこともできます



鈴木先生 簡単なことです。「希望を持たせるほめ方」を親がしてあげることです。それだけで、随分と違う結果が生まれます。たとえば、先生は、生徒がどんなに下手に弾いても「なかなかいいねえ、悪いところを除けばね」と、よく言います。アメリカでは Very good, except bad point. と言つと、みんな大笑いします。

生徒 先生、ほめられているようで嬉しくなります。

鈴木先生 ユーモアでいいから、まずほめてあげることです。悪いところばかり指摘したり、命令口調を続けていると、子どものやる気がどんどんなくなり、意欲を失うようになります。子どもが能力の育つていないうちは、うまくできないのは当たり前と考えましょう。ちよつとでもうまくできたら、まずほめてあげるのであります。

生徒 ほめられると、いい気分ですし、もつとがんばろうと思えます。

鈴木先生 その通り。最初は「タカ

生徒 (オカアサン、ヨロシクオネガイシマス)

鈴木先生 効果的な意欲づくりには、「やらせよう」ではなく「やりたくさせよう」が大切。そのために「希望を持たせるほめ方」を工夫することです。シンブルに「うん、よくできたね」、それだけで子どもは大人の想像もつかないほどに嬉しくなり、自信と意欲を身に付け、やる気になっていくものなのです。

生徒 (ガンバリマス)

鈴木先生 さあ、それではどのくらいがんばったか、聴いてみましょう。